

第5期事業報告

(平成27年9月1日から平成28年8月31日まで)

〔活動方針〕

- (1) 中部産政研の基本スタンスに基づき、健全な企業労使関係と、社会、経済の発展に寄与する事業を行うとともに、公益法人として事業の成果を可能な限り社会に広く公表発信していく。
- (2) 事業活動の重点を絞り、現在の組織、規模をフルに活用しながら、効率的でメリハリの効いた事業を行うことにより、中長期的に持続可能な財団運営を目指す。
- (3) 公益財団法人としての法人運営の定着化を図る。

〔活動報告〕

調査研究活動 公益事業1

<年度研究>

テーマ：「介護と仕事の両立」

・趣旨

高齢化の進展、家族構成の変化などに伴い、「介護」が社会問題化してきている。介護による離職は年間約10万とも言われ、労働者の5人に1人は、企業が把握していない隠れ介護だといわれている。将来、高齢化が進むのにあわせて、介護をしながら働かなければならない人が増加することが予想される。

介護に直面する人の多くは、40代、50代の会社にとっても中核の人達で、彼らの離職は、本人、及び会社にとっても損失であり、今後、介護する人が増加するのであれば、経営への影響は少なくない。現状は、育児に比べ、介護を理由に各種制度を利用するものは、まだ少ないと思われる。また、実際にどのくらいの人が介護をしているかを把握している企業も少ないと思われる。

そこで、本調査研究では、介護の実態、従業員の意識などについて調査を行い、介護が経営に与える影響を推測し、介護をしながら働き続けるために、労使、従業員が取り組むことを提言する。

- ・ 研究期間 平成27年9月～平成28年12月
- ・ 研究体制（平成28年8月末現在）
 - 松原 光代 学習院大学経済学部 特別客員教授
 - 矢島 洋子 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 主席研究員
 - 下垣 竜太 中部産政研 主任研究員
- ・ 専門委員（平成28年8月末現在）

安藤	周作	中部電力(株) 本店	多様な人財活躍支援室	副長
勝岡	信明	中部電力労働組合	本部書記長	
岩田	辰也	名古屋鉄道(株) 人事部	労政担当係長	
渡辺	一正	名古屋鉄道労働組合	労働局長兼企画調査部長	
高岡	華子	トヨタ自動車(株) 人事部企画室制度グループ	グループ長	
藤田	清憲	トヨタ自動車労働組合	職場活動局	局長
近藤	紘平	(株)デンソー 人事部労務室国内労務課	担当係長	
川人	哲也	デンソー労働組合	執行委員	
横井	巧	アイシン精機(株) 人事部労政G		
西尾	清人	アイシン労働組合	中央執行委員	
小島	直子	トヨタ車体(株) 人事部人事室	人事企画G	
三木	真悟	トヨタ車体労働組合	執行委員	
加藤	朗	トヨタ紡織(株) グローバル人材開発部グローバル人事室	主任	
吉村	宏太	トヨタ紡織労働組合	執行委員	
鈴木	佐代	全トヨタ労働組合連合会	経営政策局	部長

・研究経過

平成 27 年 9 月～28 年 1 月	進め方検討、アンケート作成
平成 28 年 3 月～5 月	アンケート調査
平成 28 年 5 月～	アンケート入力・集計・分析

専門委員会

第 1 回	平成 27 年 10 月 23 日	研究企画説明・意見交換
第 2 回	平成 27 年 12 月 7 日	アンケート調査案について意見交換
第 3 回	平成 28 年 1 月 19 日	アンケート修正案・調査実施要領について 意見交換
第 4 回	平成 28 年 8 月 29 日	アンケート調査結果報告

・報告会及び報告書発行

研究成果の報告会として、平成 28 年 11 月に中部産政研公開セミナーを開催し、平成 29 年 12 月、報告書を発行の予定。

教育啓蒙活動 公益事業 2

<セミナー>

事業としての公益性を念頭に情報提供や課題提起の一環として、時宜に合ったテーマを選定して開催した。

開催日・場所	テーマと講師	参加数	内 容
平成 27 年 11 月 16 日 名鉄 ニューグランドホテル	「これからのミドル以降 の働き方」 日本大学 准教授 安藤 至大 氏	130 名	第 4 期年度研究テーマの研究成 果報告会を「公開セミナー」とし て開催し、広く社会に発信した。 働き方の現状と課題に始まり、今 回のアンケート調査を基にした、 ミドル以降の働き方の課題やこれ からの方向などについて報告。



<産政塾>

第 27 期産政塾は塾生 30 名が自らの企画・運営にもとづいて活動し、平成 28 年 8 月で終了した。

開催日	内 容 ・ 講 師
第 1 回 平成 28 年 1 月 22 日	■ 開塾式 「殻の外へ踏み出そう」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 塾長講話 ・ 自己紹介 ・ グループディスカッション <p style="text-align: right;">(愛知県名古屋市)</p>
第 2 回 平成 28 年 4 月 22 日	■ 人を巻き込むことができる伝え方とは？ <ul style="list-style-type: none"> ・ 「人を動かす伝え方」について ((株)電通 岡本達也氏) ・ グループワーク (キャッチコピー作成) ・ グループディスカッション <p style="text-align: right;">(愛知県西尾市)</p>
第 3 回 平成 28 年 5 月 13 日	■ 外国人とコミュニケーションをとり異文化を知る <ul style="list-style-type: none"> ・ 「言葉が喋れなくてもコミュニケーションをとる方法」 (南山大学 ショーン オコネル准教授) ・ 「留学生との交流を通じて異文化を知る」 (南山大学留学生) ・ グループワーク (異文化を知る) ・ グループディスカッション <p style="text-align: right;">(愛知県名古屋市)</p>

<p>第4回 平成28年 6月3日</p>	<p>■ 伝えるとは何か～伝統芸能から学ぶ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能に学ぶ「伝える力」(落語家 桂歌蔵氏) ・ 伝統芸能に学ぶ「変えていくもの・変えるべきでないもの」(浅草神社禰宜 矢野幸士氏) ・ グループワーク(落語まくらづくり) ・ グループディスカッション <p>(東京都台東区)</p>
<p>第5回 平成28年 6月24日</p>	<p>■ チームの熱意を探る～熱意ある組織を作るために～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「チームの熱意を探る」(愛知学院大学 高田 正義准教授) ・ ラグビーW杯の誘致についての体験談(東大阪市役所) 施設管理への想い(花園ラグビー場) ・ グループワーク(ペーパータワー作り) ・ グループディスカッション <p>(大阪府東大阪市)</p>
<p>第6回 平成28年 7月15、16日</p>	<p>■ おもてなしの心を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おもてなしの心の基本的な考え方の理解(北海道教育委員会講義) ・ おもてなし上で心がけていること(夢大地北海道ガイドタクシー) ・ 観光人材育成「おたる案内人」誕生の経緯(小樽観光大学校) ・ グループワーク(観光ガイド実践ロールプレイ) ・ グループディスカッション <p>(北海道札幌市、小樽市)</p>
<p>第7回 平成28年 8月8日</p>	<p>■ 閉塾式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループディスカッション ・ 個人発表 ・ 塾長講和 ・ 卒業証書授与 <p>(愛知県名古屋市)</p>

第1回 開塾式 「殻の外へ踏み出そう」



佐々木塾長講話

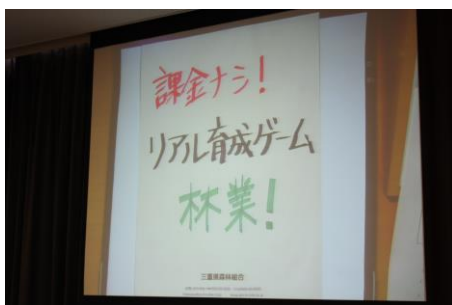


第27期産政塾生一同

第2回 人を巻き込むことができる伝え方とは？



㈱電通 岡本達也氏



キャッチコピー作成

第3回 外国人とコミュニケーションをとり異文化を知る



南山大学ショーオン オコネル准教授



南山大学 留学生との交流

第4回 伝えるとは何か～伝統芸能から学ぶ～



落語家 桂歌蔵氏



浅草神社禰宜 矢野幸士氏

第5回 チームの熱意を探る～熱意ある組織を作るために～



愛知学院大学高田正義准教授



ペーパータワー作成

第6回 おもてなしの心を学ぶ



夢大地タクシー 藤木氏



小樽観光ガイド ロールプレイ

第7回 閉塾式



グループディスカッション



第27期産政塾生一同

共通事業

<情報発信活動>

① 季刊誌「産政研フォーラム」

社会・経済におけるトピックスや、企業労使の抱える諸問題をわかりやすく解説し、それらの問題解決への方向性を探る場として、幅広い情報提供に努めた。

26年は、毎号、切り口を変えて、有識者、研究員、実務者の方々から幅広く寄稿いただいた。

平成 27 年 9 月	No. 107	特集『次代を担う』
平成 27 年 12 月	No. 108	特集『温故知新－歴史に学ぶ』
平成 28 年 3 月	No. 109	特集『温故知新－歴史に学ぶ 2』
平成 28 年 6 月	No. 110	特集『労働力不足時代』

② 調査研究報告書等の発行

第4期年度研究「これからのミドル以降の働き方」の報告書を平成28年10月に発行予定。

③ ホームページ（アドレス<http://www.sanseiken.or.jp/>）

情報発信、公開の観点より、調査研究内容や、産政研フォーラム、公開セミナーの案内、産政塾の活動報告など、掲載内容の充実を図った

収益事業

<受託研究>

① 第4・5期全トヨタ労働組合連合会 受託研究

テーマ 「産業基盤強化に向けた人づくり職場づくり」

・趣旨

全トヨタ労連として、日本にモノづくりを残すために必要な「強み」は「品質へのこだわり」「カイゼンする力」であるべきと認識している。

この2つを強みとし、さらに磨きをかけていくためには「人材育成」「技能伝承」「コミュニケーション」「チームワーク」「マネジメント」が不可欠であり、さらに基盤として、「安全」「帰属意識・愛社精神」が必要である。

この調査を通じ、それぞれが克服すべき課題とそのため何をするべきか対策を講じる一助としたい。

・調査の観点

アンケートやヒアリング調査によって、基盤と考える「帰属意識」・「安全」と「人材育成」「技能伝承」「コミュニケーション」「チームワーク」「マネジメント」の関連性の実態を労連全体と規模、加盟組合ごとに明らかにする。

・研究期間 平成 26 年 9 月～平成 28 年 8 月

・調査概要

- ・アンケート調査は 2 年に渡り 2 回に分けて実施
- ・調査内容は、各項目の因果関係を分析することが中心。因果関係分析の精度を高めるため、「共通調査方法バイアス」理論に基づき、心理面と行動面を 2 回のアンケートに分け調査をするもの。
- ・1 回目と 2 回目の調査を同一の組合員に回答いただき、そのうち 10% の上司にアンケート調査を行うスタイルで、中産研として過去に前例の無い調査方法。

- ・研究体制 主査 脇坂 明 学習院大学 経済学部 教授
竹内 倫和 学習院大学 経済学部 教授
関谷 禎友 中部産政研 主任研究員

・研究経過

平成 27 年 4 月	第 1 回アンケート実施 全トヨタ労連加盟 125 組合＋全トヨタ販労連 12,084 名の組合員から回収
平成 27 年 7 月	アンケート集計・分析
平成 27 年 10 月	中間報告書を委託元（全トヨタ労連）に提出
平成 27 年 12 月	第 2 回アンケートを実施 11,780 名の組合員、1,150 名の上司から回収
平成 28 年 2 月	アンケート集計・分析
平成 28 年 4 月	ヒヤリングを 10 社 11 拠点にて実施
平成 28 年 9 月	最終報告書を委託元（全トヨタ労連）に提出